



# 埋文よこはま

## — 横浜の貝塚① — 縄文時代編

### 貝塚の形成

37



にしのやと  
西ノ谷貝塚の住居内貝層



AR

たの山にえママ  
かくしてみる  
お詫びます物に



元町貝塚の斜面貝層

- ◎住居内貝層…使用されなくなった住居の跡に捨てられた貝類などの蓄積
- ◎斜面貝層…ムラが立地する台地の斜面部分に捨てられた貝類などの蓄積 詳細はP3へ

海岸近くならどこでも  
貝塚が多いと思って  
いたあなた、さあページ  
をめくってみましょう！

日本列島は海に囲まれ、貝類や魚類などの水産資源の利用が積極的に行われてきました。縄文人が食べた貝類の殻や魚の骨などは、鳥獸の骨やドングリの殻などの食糧残渣、壊れて不要になった土器や石器などの道具類と共に、ムラの一定の場所に捨てられました。それらが蓄積した、いわゆるゴミ捨て場が貝塚と呼ばれているのです。ゴミ捨て場といっても、当時の人々の暮らしを調べている私たちにとっては、大量の情報を持つ宝の山です。

貝塚は世界中になりますが、東アジア沿岸域は世界的にみても貝塚が濃密に分布しており、日本では3000か所以上の貝塚がみつかっています。北海道から沖縄まで全国各地の沿岸部を中心に多くの貝塚が形成され、特に多く分布するのは、太平洋岸や東シナ海沿岸の水深の浅い内湾や潟湖周辺、河口域などです。一方、外洋に面した海岸では、貝塚分布は東北地方の三陸南部沿岸などの例外を除き、比較的希薄で小規模です。水深の深い沿岸部や外洋に向いて開いた平野部では貝塚が形成されにくかったとみられます。

横浜では、北部の鶴見川流域では南に位置する大岡川や帷子川に比べて、貝塚が密集します。これは縄文海進によって海が内陸に入り込んだ時に、鶴見川流域では湾口が広く、水深も浅かったため、広い湾内に泥や砂の干潟が発達し、人々が貝類を採取しやすい環境があったからです。こうして採集した貝類を人々が食べて廃棄し、やがて貝塚が形成され、土の中に埋もれていく様子を、次頁から詳しく見ていくことにしましょう。

（ただし、貝塚の中にヒトやイヌの歯がつくられるなど、現代のゴミ捨て場の感覚とは少し異なる場合もあり、貝塚そのものが汚染行為の結果であると考える人もいます。）

Go to  
next page

## ①人々の暮らしと貝塚～食料調達の時期を探る～

縄文時代の人々は主に狩猟・漁撈・採集によって食料を獲得していました。現在の私たちは農耕などを主とした生産作物によって食料を得ていますが、当時の人々の暮らしは、季節に応じた自然の恵みに依存しており、貝をはじめとした、自然のサイクルを理解することは非常に重要でした。縄文時代は多種多様な資源を利用しており、少數の資源に限定しないことで、食料の安定化を図っていました。下記の「縄文カレンダー」は縄文人の年間行動スケジュールを模式的に表したもので、縄文時代の人々は、自然の移り変わりに合わせ、食料獲得などのすべての生活の営みを行っており、その一つに貝類の採集がありました。

### 貝殻成長線分析



## ②貝塚の形成～貝殻はどこに捨てる？～



当時の人々は貝を食べた後、その殻はどこに捨てたのでしょうか。縄文時代の人々は、ムラの周辺の斜面や空き地、使用しなくなった竪穴住居の跡などに貝殻を捨てていました。同じ場所に何度も捨てたため、それらが堆積し、貝塚となりました。

捨てられる場所によって、斜面貝層、平地貝層、住居内貝層、地点貝層など様々な名前で呼ばれます。皆が決まった場所に捨てるルールがあり、当時の人々のムラ計画がすでにあったようです。

上の図の茅ヶ崎貝塚にみられるように、貝層は外縁部の遺構や斜面部に形成されるなど、生活の場の衛生面を保つため、ムラの外縁にみられる場合が多くあります。

どんなところに貝塚は多くみられるの？

噴火湾、仙台湾、古鬼怒湾（現利根川下流・霞ヶ浦沿岸域）、東京湾、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海（特に児島湾周辺）、有明海などで分布密度高い

### 【理由】

- 比較的閉鎖的な内湾域や河口域では、陸からの多量の有機物などが溜まり、海と陸の両方の有機物により貝類が繁殖
- 水深が浅いため、マガキ、ハマグリ、アサリなどの有用貝類の生息地となる浅瀬や干潟が広く、これらの貝類が大量に繁殖
- 太平洋岸では潮の干満差が大きく、干潮時には広い干潟を形成し、潮干狩りに好適

\*ただしこういった地形条件だけが貝塚形成の理由ではない



### ③捨てられた貝のその後～貝が消える?～

日本遺跡を発掘してみつかるもの（遺物）の多くは土器や石器などの人がつくった道具です。生活中で使用した、その他の様々なモノは何処にいってしまったのでしょうか。動物を捕ればその骨など、堅果類であればその殻など、食べられない部分が出ます。また住居の建築部材をはじめとして、人々の生活の多くを支えてきた木材などの植物質資源や、当時の人々が着ていた服（おそらく動物の皮であったり、植物質を編んだもの）、こうしたものはなかなか遺跡から発見されません。これは、動物や植物のような有機質遺物は、酸性土壤である日本では基本的には残らないことにあります。しかし、土壤の含水量と酸性・アルカリ性の程度によって、これらのものも地面の中に残る場合があります。<sup>※1</sup>

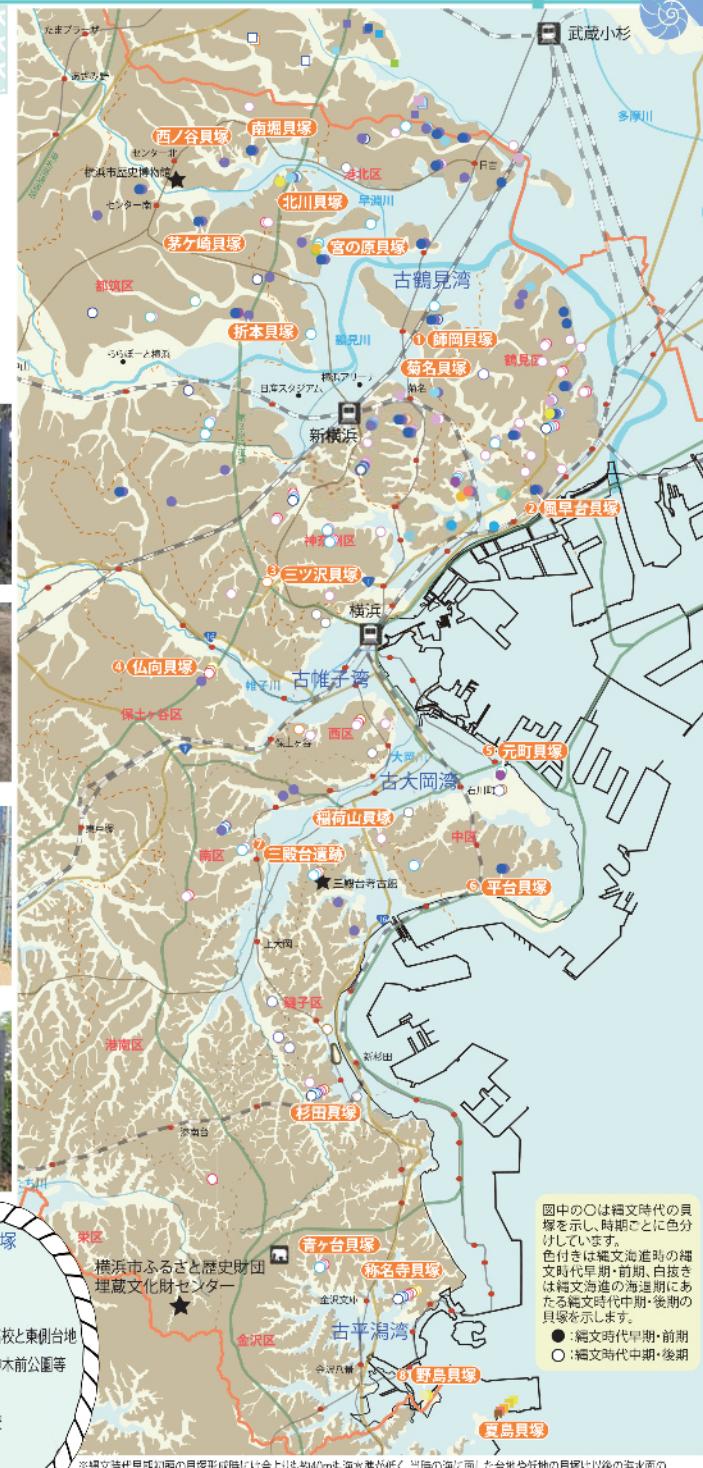
こうした有機質遺物が残る一つの条件下が貝塚です。貝塚は多くの貝殻が集積した遺跡であり、貝殻から溶脱するカルシウムイオンが、土壤の酸性を中和し、また弱アルカリ性に変え、さらに貝や骨から溶脱するカルシウムを補填するため、貝や骨が保存されます。つまり、本来分解されて残らないものも、貝塚の中では発見することが出来ます。もちろん、すべてが完全に残るわけではありません。現在私たちが検出した貝塚は、本来なら何倍もの貝類などのゴミが堆積した大きな貝塚であったことでしょう。



### 横浜の貝塚Map

貝塚のあった場所を訪れると、海から離れた内陸の台地の上であることに多くの人が驚きます。

右の図では、海が大きく入り込んだ縄文海進時の海岸線ラインを示しています。縄文海進時には現在の海岸線より海がずっと内陸に入りこんでおり、現在内陸にある貝塚であっても、当時は海が近く、人々は貝類などを採集しに海まで降りていき、台地の上に集落まで運びました。



図中の○は縄文時代の貝塚を示し、時期ごとに色分けしています。  
色付きは縄文海進時の縄文時代早期・前期、白抜きは縄文海進の海退期にあたる縄文時代中期・後期の貝塚を示します。

●: 縄文時代早期・前期  
○: 縄文時代中期・後期

#### 行ってみよう！案内板・碑のある貝塚

- ①師岡貝塚 港北区師岡町1137 師岡熊野神社
- ②風早台貝塚 鎌倉区岸谷2-1-1 生麦中学校
- ③三ツ沢貝塚 神奈川区三ツ沢南町等 横浜翠嵐高校と東側台地
- ④仏向貝塚 保土ヶ谷区仏向町845-25外 仏向神木前公園等
- ⑤元町貝塚 中区山手97 アメリカ山公園
- ⑥平台貝塚 中区本牧綠ヶ丘37 横浜緑ヶ丘高校
- ⑦三段台遺跡 磯子区岡村4-11-22 三段台考古館
- ⑧野島貝塚 金沢区野島町24付近 野島公園

\*1 「理文よこはま」35号P7参考（理文センターHPにおいても閲覧可能）。 \*2 溶脱…土壤中の物質が降雨や蒸発などによって、溶解され除去されること。

#### ④どんな貝を採つて食べていたの?~横浜市内の貝塚あれこれ~

縄文時代の貝塚は30~40種類ほどの貝類で構成され、主要貝類は通常3~4種類、多くて10種類ほどです。なかでも多く出土するのは、ハマグリ、アサリ、ヤマトシジミ、ハイガイ、マガキ、イボキサゴなどで、東京湾沿岸の貝塚では、オキシジミ、シオフキ、ツメタガイ、マテガイ、アカニシ、サルボウガイも多くみられます。神奈川県の貝塚では、三浦半島を中心に、スガイも多くみられます。弥生時代以降も貝塚はみられますが、貝の種類は減少し、貝を選んで採集していることがわかります。これらの貝類は、スガイは岩礁、ハマグリやアサリは干潟、ヤマトシジミは汽水域とそれぞれ生息域が異なります。貝塚を構成する主要な貝類は、遺跡の立地が大きく影響しますが、内湾域の干潟や湾中央部の砂底などの、今の私たちが潮干狩りで採集するような貝類が多くみられます。

横浜市内では縄文海進が進んだ縄文時代前期から貝塚が増加し、特に横浜北部の鶴見川流域に多くみられます。代表的な貝塚に、古鶴見湾流域では、鶴見川支流の早瀬川流域に茅ヶ崎貝塚、西ノ谷貝塚、南掘貝塚、北川貝塚、鶴見川流域には折本貝塚、菊名貝塚、宮の原貝塚、占領子湾では三ツ沢貝塚、仏向貝塚、古大岡湾では元町貝塚、平台貝塚、稲荷山貝塚、根岸湾では杉田貝塚、古平潟湾では野島貝塚、称名寺貝塚、青ヶ台貝塚、夏島貝塚(横須賀市)等があります。

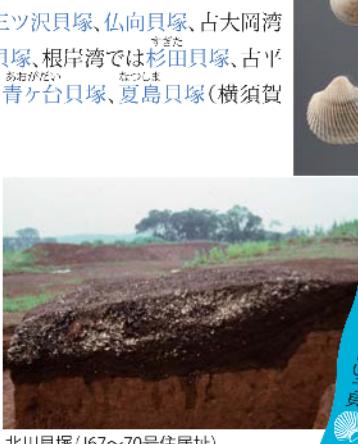


北川貝塚出土の貝類(縄文時代中期) 1ハイガイ  
2シオフキガイ 3アサリ 4オキシジミ 5カガミガイ  
6マガキ 7サルボウガイ 8ハマグリ 9イタボガキ

ハイガイは関東近郊で潮干狩りに行っても採れません。この貝は現在、有明海などの西日本のごく一部にのみ生息しています。南関東より高水温の西日本以南にすむ暖流系種であり、温暖種のメルクマールとされています。気温が高かった縄文時代前半期には、この貝がよくみられますが、やがて現在と同じ様な気温になるとみられなくなります。



野島貝塚(南貝塚)



北川貝塚(J67~70号住居址)



茅ヶ崎貝塚(北斜面具層)



平台貝塚(VII区東西断面)



青ヶ台貝塚(2地点5ライン)



称名寺貝塚(マテガイ層)

#### マテガイ採り

Let's try!

マテガイという細長い二枚貝をご存知でしょうか?このマテガイを探るにはちょっとしたコツがあります。砂を掘ってちょっと細長い楕円形のマテガイの穴をみつけます。穴を見つけたら、水平にさらに掘り、穴がある程度大きくなったら塩を入れます。しばらくすると、マテガイが自らびよごと飛び出でるので、これをキャッチします。縄文時代の貝塚からもマテガイ層がみられます。マテガイが集中してみつかり、同時期にある程度の量を採集できたと思われます。当時の人々はいったいどのようにマテガイを探っていたのでしょうか?

#### 貝の名前と貝のすんでいるところを見てみよう!

←  
潮干狩り場

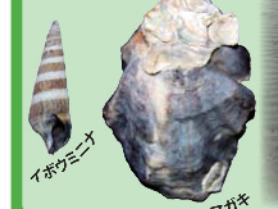


#### ~貝塚の貝図鑑~

貝塚から出てくる貝はどんな貝かな?  
潮干狩りに行って確認してみよう!

水域	沿岸水			内湾水			
	湾の外側		湾口部	波食台	湾中央部	湾奥部	河口
どんなところ	岩	砂や泥	砂	砂や小石	砂	シルト～泥	砂や泥
海底の様子	岩	砂や泥	砂	砂や小石	砂	シルト～泥	砂や泥
潮間帯	海の溝引きにより、潮がひいたときに海底が現れる場所のこと	9	3 砂がたまつた内湾部	1 干潟(海の溝引きで水面から出たり入り込んだりする砂と泥の場所)	2 潮溝(海の溝引きによって水の深さが変化するところ)	7 海草・海藻が生い茂るところ	6 サラシナギ
上部浅海帯	陸に近い水深20m程度までの海域	8 海中に隠れている岩のある外洋	5 海中に隠れている内湾部の岩場	4 泥がたまつた内湾部	6 砂や小石がたまつた湾口部	7 海草・海藻が生い茂るところ	8 ハマグリ

#### ②にすんでいる貝類



マガイは②にも住んでいます。岩場にすんでいるイメージだけど、石や貝殻など色々なものに付着し、干潟にもいるよ。



イボシ、レイシガイ、ヘソアキクボガイなど、縄文時代の貝塚からもみつかる岩磁性の貝類が沢山いるよ。  
横須賀市荒島海岸

#### ③にすんでいる貝類



マテガイ  
シオフキガイ  
アサリ  
カガミガイ  
アカガイ  
ツメタガイ  
サルボウガイ  
ハマグリ  
ヤマトシジミ  
バカガイ

沙粒の細かな野島海岸ではマテガイが生息しているよ。  
マテガイ採りに挑戦してみよう!(P.6 参照)

千葉県木更津市金田海岸



干潟でもかなり潮が引いた湾中央部側にイボキサゴが群集しているところがあるよ。



おおむね殻の大きさが同じですが、殻の形が違うよ。  
おおむね殻の大きさが同じですが、殻の形が違うよ。

①にすんでいる貝類  
④にすんでいる貝類

\*上の貝類の写真は再生模本です。貝塚から出てくる貝類はP.6の写真のように殻皮や表面の色などが落ちて白っぽくなっています。

## 横浜の遺跡展

### 平成30年度 横浜の発掘調査成果速報展

近年、市内で発掘された遺跡の調査成果や、港北ニュータウン地域の遺跡のなかから整理報告を行った遺跡を紹介します。

会期：4月7日（土）～7月1日（日）

会場：横浜市歴史博物館 企画展示室

同時開催：横浜市歴史博物館 企画展「横浜発掘物語2018」

観覧料：大人300円 高校・大学生200円 小中学生100円

#### <展示遺跡>

道中坂上遺跡（縄文・弥生）、塙田原遺跡（縄文）、寺尾城址（中世）。

泉中央公園遺跡（中世）、上行寺裏遺跡（瀬戸内2番地やぐら群）（中世・近世）、金沢区No.52遺跡（六浦二丁目所在やぐら）（中世）

プロアレクチャー 5月13日（日）11:00～

6月 2日（土）11:00～14:00～

参加は無料ですが、企画展チケットが必要です。

### 「横浜の遺跡展」関連講演会

#### 最新の調査成果から探る中世の横浜

展示した遺跡のなかから、中世の遺跡について講演を行います。

1. 泉中央公園遺跡～伝泉小次郎館跡（泉区） 平山尚言
2. 寺尾城址～鶴見の中世城郭（鶴見区） 浪形早季子
3. 上行寺裏遺跡、金沢区No.52遺跡～金沢のやぐら群（金沢区） 橋本昌幸
4. 文献史料からみる発掘調査成果 阿諏訪青美（各回30分）

◇日時：平成30年5月13日（日） 13:00～16:30

◇会場：横浜市歴史博物館 講堂（定員：150名）

◇費用：500円（資料代）

◇申込：往復はがきに催事名・住所・氏名（ふりがな）・

電話番号を記入の上、埋蔵文化財センターへ

◇締切：平成30年4月18日（水）必着

採集した貝で、自分だけのオリジナルの  
貝標本をつくってみよう！



01 潮干狩りやお店で買ったものなど、身の入っているものは箱で煮ます。

\*お子さんが行う場合は家の人と一起去ってください。

02 砂浜で拾った貝殻は貝の表面などにコミや汚れがついていますので、水でよくこすって洗います。家で食べた後の貝の殻、特に二枚貝は貝柱が残っていますので、ブラシなどでしっかり取り除きます。

03 ふつうの洗い方で、汚れやにおいがとれないときは、液体のキッチン漂白剤を使います。使う時にはゴム手袋、マスクをするなど、注意事項をよく読んで行ってください。3～5倍ほどにうすめた漂白剤に、一日つけた後、ぬめりやにおいがとれるまで、よくすすぎます。においが残る場合は数日つけおきます。

\*お子さんが漂白剤を使う場合は、家の人と一起去って下さい。瓶につくと、色が落ちてしまうので、エプロンなどをしてから行います。

04 日陰で乾かします。

05 ラベルに貝の名前や採集した日付と場所を記入します。

06 貝とラベルを箱の中に入れて完成です。

本紙はARがご覧いた  
だける箇所があります。

ARをご覧いただくにはアプリのダウンロードが必要です

AR閲覧期間(2018.3.1～2018.8.31)

スマートフォンやタブレットでご利用になれます(※パソコンではご利用できません)

詳しくは、ホームページで動作しない場合があります

**iPhone/iPadの方**

- ①「App Store」をタップ
- ②「検索」をタップ
- ③検索に「COCOAR2」と入力
- ④出てきた「COCOAR2」をタップ
- ⑤「入手」をタップしてダウンロード



App Store

～ご利用手順～

- ①アプリをダウンロードしてください。
- ②アプリを起動し、のマークのある写真やイラストにスマートフォンをかざすとARコンテンツが表示されます。

**Androidの方**

- ①「playストア」をタップ
- ②「アプリ」をタップ
- ③検索に「COCOAR2」と入力
- ④出てきた「COCOAR2」をタップ
- ⑤「インストール」をタップしてダウンロード



Google Play

今回のテーマは貝殻です。縄文時代から現代の私たちまで、内湾で収集する潮干狩りでは同じ貝を探っています。過去も現代の私たちも、自然の恩みをその瞬間に合わせて探しに行き、味わう。そんな過去との共通点に少し驚きながら、本紙を是非、香の灘干狩りシーズンのお出かけの参考にしていただければと思います。編集N

#### 《埋蔵文化財センターのご案内》

JR線「港南台」駅

2番バス乗り場より「上郷ネオポリス」行きまたは「栄パーク」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分  
京浜急行線「金沢八景」駅

国道16号1番乗り場より「上郷ネオポリス」行き、終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分  
または「大船駅」行き、「長倉町」下車徒歩7分

JR線「大船」駅

3番乗り場より「金沢八景駅」行き、「長倉町」下車徒歩7分

- ・児童等の施設利用は、平日の9～17時となっています。
- ・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

「埋蔵よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

#### 埋蔵よこはま37

発行日 2018年3月1日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団  
埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1  
TEL. 045-890-1155  
FAX. 045-891-1551

印 刷 株式会社ナディック